

文化

アイヌ文化伝承者の生涯 一冊に

遠山サキさんに聞き取り、出版祝う



コンサートでアイヌ民族の歌を披露する遠山サキさんの子や孫たち

アイヌ文化伝承者・故遠山サキさんの生涯をまとめた「アネサラ シネウプロ」(地湧社)の出版記念コンサートが18日、札幌・豊平館で開かれ、サキさんの子や孫たちがアイヌ民族の歌を披露して祝った。

サキさんは日高管内浦河町姉茶^{あねぢや}で生まれ育ち、昨年12月に90歳で亡くなった。タイトルは「アネチャ ひとつのふところ」を意味し、千葉県在住の長女弓野恵子^{きゅうのけいこ}さん(71)が7年かけて聞き書きした。差別に苦しんだ幼少期のほか、子育ての傍らアイヌ語や伝統文化の

継承に励んだ様子などが話し言葉でつづられ、当時のアイヌ民族の暮らしが浮かび上がる。

18日は関係者約140人が出席。長男の遠山長寿^{ながとし}さん(63)が「今日は母もここで見守っていると思う」とあいさつ。弓野さんはじめ次女床^{とこ}みどりさん(68)、三女堀悦子^{ほりえこ}さん(66)とその子供たちも参加し、アイヌ民族の歌や楽器演奏などを披露した。

会場ではコンブシト(昆布団子)などアイヌ民族の伝統料理も振る舞われた。

(岡高史)